

かつての猿橋町(大原村)に“清酒真澄”で著名な長野県諏訪の酒蔵“宮坂醸造”直営の酒屋があった事を知る人は多くない。

宮坂醸造(宮坂家)とは、

宮坂家の先祖は諏訪を治める諏訪氏の家臣だったが、戦国時代、諏訪氏・武田氏・織田氏の戦乱に翻弄された末、刀を捨てて酒屋となった。真澄蔵元・宮坂家が酒造りを始めたのは1662(寛文2)年、信濃国諏訪郡上諏訪町(現在の長野県諏訪市)にて酒造業として創業した。

以来、大布屋(おおのや)を屋号として営々と酒造りを続けた。

1916年(大正5年)、味噌・醤油の製造も開始、後の神州一味噌である。

宮坂醸造は1933(昭和8)年、第20代宮坂伊兵衛により宮坂醸造株式会社を設立、法人化した。代表銘柄の「清酒“真澄”」は江戸後期から使い始めたブランド名で、名前の由来となった「真澄の鏡」は、諏訪大社のご宝物から頂く。

宮坂醸造の誇りでもある「酵母7号」については <https://www.nomooo.jp/article/2018/09/08/4120.html>

写真は蔵元HP「真澄 おかげさまで350年」から <https://www.masumi.co.jp/350th/>



## 猿橋“酒の大布屋”の発祥

宮坂醸造株式会社総務部編集の書籍「宮坂家(宮坂家の親族・事業)」には、猿橋の店舗に関して

・大正8年(1919)11月13日 山梨県猿橋の酒造工場買収

天野伊蔵妻佐藤さぬ氏より価格16,200円 主任平出恵作兼任 後藤森倍夫 始め酒、味噌、醤油の小売、後味噌を醸造す。

・昭和17年(1942)11月 猿橋工場長藤森保雄氏逝去(以後まつ夫人代理す)。

・昭和32年(1957)9月 猿橋営業所を閉鎖、店舗を清水愛治氏に貸与。倉庫二棟丸高工場へ移築。

と記されている。

この記録によると、1919(大正8)年に宮坂家が北都留郡行政の中心地である大原村(現猿橋町)に現存した酒造工場(経営者:天野伊蔵妻佐藤さぬ氏)を買い取り、酒と味噌・醤油の小売(後に味噌を醸造)する店舗を開設した。その後、約40年弱の営業期間を経た1957(昭和32)年9月、宮坂醸造(株)猿橋営業所(当時の呼称)を閉鎖するに際し、店舗を清水愛治氏に貸与。倉庫二棟は諏訪市の宮坂醸造丸高工場へ移築した。以上が猿橋にあった店舗工場に関する概要である。

大正から昭和にかけての「工場(白線円内)」の写真が残されている。

絵葉書「猿橋町全景」の一部 (大正期)



開設当時の大布屋 左端は店舗 奥が倉庫 (甲州街道東側から観る)



(甲州街道西側から観る) 奥が店舗



移築された倉庫二棟の跡地はその後、1965（昭和 40）年前後に当時の富士山麓電気鉄道（1960（昭和 35）年富士急行に変更）のバス車掌さん達の寮が建ち、その後、「新猿橋」橋畔にあったバス営業所が移転し、現在の富士急バス大月営業所となった。（宮坂醸造の跡地はすべて富士急バスに）

現在の富士急バス大月営業所 奥に現在の大布屋の文字が見える



ここからが現在の「酒の大布屋」である。

1957（昭和 32）年、宮坂醸造の店舗閉鎖に伴い現大布屋の先代である清水愛治氏（富浜町宮谷出身）が、東京都中野区にあった宮坂醸造味噌工場（神州一味噌、工場は 2016 年閉鎖）に勤務していた関係から「のれん分け」を受け、宮坂醸造の屋号でもある“大布屋”を引き継ぎ猿橋町で開業した。

当時の店舗は広い土間を有し、山王宮祭の宵祭りの晩などは“大人神輿”が、店舗を「御神酒所（みきしよ）」として使い、担ぎ手の若い衆が酒を酌み交わす姿が見られたという。

現在の大布屋（店舗・住宅）は、宮坂醸造時代に隣接していた谷村裁判所大原出張所（登記所）跡地に建ち、愛治氏の子息「清水明愛氏」が「酒の大布屋」に発展させた。

日本名門酒会加盟等市内有数の日本酒専門老舗酒店として地域に君臨している。

現在の“酒の大布屋” HP <https://r.goope.jp/oonoya/>



猿橋：酒の大布屋 代表者：清水明愛  
山梨県 大月市猿橋町猿橋 184-7  
TEL:0554-22-0507